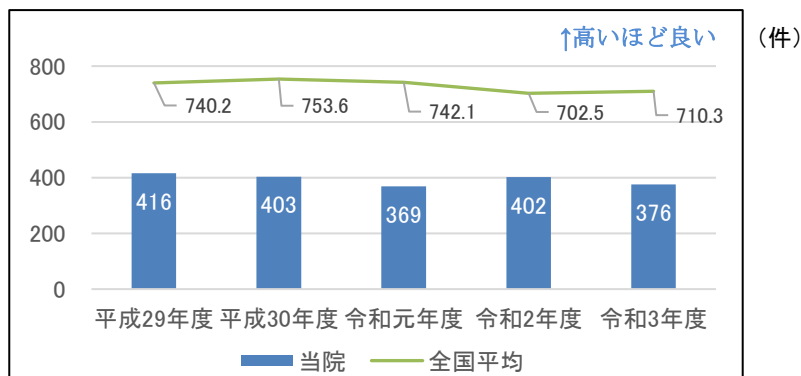


## 18 術中迅速病理組織診断件数

### ○項目の解説

正確で迅速な病理診断は、悪性腫瘍などの病巣切除の適否または切除範囲を決定するため、手術中に必要となることがあります。そのためには、限られた時間内に切除された標本を処理し、迅速かつ正確な診断のできる熟練病理医と設備が病院内に必要となります。件数が増加するほど、これらの機能が充実していることを表現しています。

### ○当院の実績



### ○当院の自己点検評価

数年前から、医学的エビデンスにより不要といわれている症例の術中迅速病理組織検査をなくすように努力しており、近年減少傾向が続いていた中、令和2年度は前年比約10%増となりました。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、手術件数の抑制などの影響から、約6%の減少となりました。今後も400件弱程度で推移していくものと考えられます。

一般的に、適応外症例の術中迅速検査は、無駄な医療費の増加、正確な最終病理診断の妨げとなることから、その適応は十分に吟味されなければなりません。本年度も症例によっては、凍結病理標本を作製せず細胞診のみで術中診断を施行し、また、肉眼的に明らかな症例は、術中の病理・細胞診断検査は行わず、肉眼診断のみの術中診断を施行するなど、正確で、迅速、低コストの診断を心掛けています。

### ○定義

DPC データを元に算出した、医科診療報酬点数表における、「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)、N003-2 術中迅速細胞診」の算定件数です。

### ○算式

実数